～もっと地域と　もっと地域へ～

かがやくえがお

第24号

【学校教育目標】夢をもち、ふるさとを愛し、自ら未来を切り拓く児童の育成

令和８年１０月　６日
長崎市立小島小学校
校　長　　桐山　充晴

長崎くんち（10月7～9日）



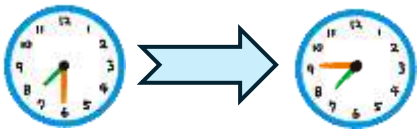
今年も、長崎屈指の秋の大祭「長崎くんち」が明日（７日）から開催されます。あいにく３日とも平日開催となりますが、天候もよく、多くの人出が予想されています。３９２年の歴史を持つ長崎の伝統芸能であると同時に、国指定重要無形民俗文化財でもありますので、機会があれば触れてほしいと思っています。是非、子供たちにも、時間の許す限り伝統ある祭りを体感してほしいものです。

ただ、先日tetoruにて配信させていただいた「おくんちの生活指導」は必ず守るように御指導いただければと思います。



また、繰り返しのお知らせですが、「長崎くんち」の開催に伴い、7日（お下りの日）は、**全学年給食終了後（１３:５０ごろ）に下校します。**放課後の過ごし方や家庭学習について再度、確認していただき、児童が安全に過ごせるよう御配慮をお願いします。

登下校の時刻の見直し



２学期のスタートと同時に、１１月から校舎内への入場開始時刻を、**現在の７時３０分から７時４５分へ変更**することをお伝えし、それに向けて、９月から１０月までの間を試行期間として調整をお願いしていたところです。保護者の皆様には、御家庭での朝の時間の調整や登校時の見守りなど、温かい御理解と御協力をいただき感謝いたします。

この１ヶ月間、皆様のおかげで、子供たちの登校時刻も少しずつ落ち着き、新しい時間帯へのリズムが整いつつあります。

いよいよ１１月からの完全実施に向け、引き続き子供たちが安全に、そして安心して登校できるよう見守っていきたいと考えています。御家庭におかれましても、引き続き規則正しい生活習慣づくりや登校時刻の遵守につきまして、さらなる御理解と御協力をお願いいたします。



また、**１０月から３月までは、子供たちの帰宅時刻は１７時**となっていますので、そちらもあわせて御指導いただければと思います。

前期の通知表を持ち帰ります！



本校は、4年前から通知表２期制となり、今週の金曜日（９日）、前期の通知表を持ち帰らせます。

通知表は、お子様の学校での様子をお知らせする「学習や生活の記録」であり、「成長した軌跡」です。そして、家庭と学校とが協力して、よりよく育てていくためのものです。御家庭で前期の学校生活について話合い、学習面・生活面のよさを認め、ほめる材料として、また後期の目標づくりの基にしていただきたいと考えております。

子供たちがこれから生きる社会は「予測困難な社会」と言われます。そうした社会の中で自己実現を図るためには、自己理解は不可欠です。今の自分の状況を客観的に把握し、次の一歩をどう踏み出すのか、自分づくりの構想につなげていく力が求められます。

学期末と異なり、長期休業中の生活面指導等がありません。通知表をもとに、担任が一人一人の子供たちと学習の取組やその成果等についてしっかりと話をする時間を確保できます。こうした時間を確保することで、子供たちにとっても、自分の学習の取組がどのような成果として通知表に表れているのか、後期の学習に見通しはどうするのかを考える機会となります。今の自分を知ることで、次の自分づくりにつながります。

〇評価について

現在の評価は、各教科で設定した目標（規準）に達しているかをみる『目標に準拠した評価 （絶対評価）』であり、他の子の評価（成績）に関係なく、その子の頑張った結果が反映されるものです（昔は、学級の中で上位○%、中位○%、下位○%というように、学級の中の位置付けで決まる『相対評価』というものでした。）。

「十分満足」が何個で「ほぼ満足」が何個あったという見方でなく、どの教科のどんな学習で力が発揮されたか、どんな部分をこれから頑張ればよいか等、お子様をほめたり、励ましたりするための材料としてください。

〇評価項目について

数年前から『単元別』（「円の面積を求めることができる」「植物のつくりとはたらきについて理解している」等）ではなく、『観点別』の項目（「知識・技能」 「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」）になっています。項目の内容が一見分かりにくく感じられると思いますが、これは、学校教育は本来、単元ごとになっている教科書の内容を教えるのが目的ではなく、学習指導要領の内容を教科書を使って教えるのが目的だからです。

１０月のテーマ「続ける」

昨日（１０月５日）に、「１０月の全校集会」を実施しました。毎月、その月に重点的に頑張ってほしいことや意識してほしいことを目標（テーマ）として話しています。

その校長講話では、１０月のテーマが「続ける」であるということを以下のような話で伝えました。一人一人が目標をもって、それに向けての努力を積み重ねていく姿が増えていくことを願うばかりです。 （講話の内容から抜粋要約）

まず、覚えておいてほしいのが、**「継続は力なり」**という言葉とその意味です。低学年のみなさんにはちょっと難しい言葉ですが、「継続」というのは「続ける」ということと同じ意味です。簡単に言い換えると「続ければ力になる」ということです。ただ、この「続ける」というのは、１週間や２週間のことではありません。目標が達成できるまでのことです。

そのよい例が、プロ野球選手の大谷翔平選手です。これまで誰も達成することができなったことを、次から次に成し遂げてきました。これは、人がやっていないことや新しい記録に挑戦を続けてきた結果です。大谷選手は次のように話しています。**「やれるかやれないかではなくて自分次第」「人生が夢をつくるんじゃない。夢が人生をつくるんだ」「成功するとか失敗するとかぼくには関係ない。それをやってみることの方が大事」「無理だと思わないことが一番大事だと思います。無理だと思ったら終わりです」**この言葉通り、大谷選手は、小学校の時から「いつかはメジャーリーグでプレーしたい」と夢をもち、希望を持って努力を欠かさず続けました。もちろん、うまくいくことばかりではなく悔しい思いをすることも多くありました。それでも目標に向かって努力を続けてきているということです。

成功する人とそうでない人の差は、「続けられるか、続けられないか」ということだけなのです。

これまでやってきたことを続けるのもよし、ここから新しいことをやり始めてもいいでしょう。自分を信じて精いっぱい努力を続けていってほしいです。





最近の子供たちを見ていて、気になることがあります。

それは、「努力を積み重ねる力が弱くなってきているのではないか？」ということです。もちろん、すべての子供たちがそうだとは言いません。しかし、学校での学びやスポーツ、習い事などを見ていると、「すぐに結果を求める」「苦労せずにできる方法を探す」子供たちが増えてきているように感じます。YouTubeを開けば、すぐに楽しい動画が流れてきます。調べものをするときも、インターネット検索すれば、知りたいことがすぐに分かります。「努力しなくても、欲しいものはすぐに手に入る」そんな環境に慣れてしまった子供たちは、「積み重ねることの大切さ」を実感する機会が減っているのかもしれません。

例えば、「練習しても、試合で活躍できるようにならないから面白くない」など、「頑張ったのに結果がすぐに出ない」ことが、子供たちにとって大きな壁になっているのではないでしょうか。でも、本当は 「成果が出るまでに時間がかかるものこそ、大きな力になる」のです。また、「小さな努力の積み重ね」が、「自信」につながります。少しずつでも努力を続けることで、「自分はできる！」という感覚をもつことができるのです。

「継続は力なり」という言葉を紹介しましたが、これはまさに「積み重ねる力」の大切さを表している言葉だと思います。小さなことから積み重ねる経験を大切にしてほしいですね。